令和３年１月１８日

社会福祉法人いずみ　ひまわり（児童発達支援）

令和２年度 ひまわり（児童発達支援）　自己評価に対する検討結果

アンケート実施期間：令和２年 11 月

	アンケート結果	改善目標、工夫している点
環境・体制整備	保護者より ・「活動等のスペースが十分に確保されている」の項目について「他室も使え、広々と活動できて良い」とあった。	・他室(放課後等デイの部屋)利用について：午前(ひまわり活動時間)は空室が多く、ＰＴ個別や、レク等の活動時、使用する事で広いスペースが確保できた。感染予防対策にも繋がった。
	・「職員の配置数や専門性は適切である」ではどちらともいえないが 1 名、わからないが２名いた。「児の人数に対し職員が少ないと思われる」との意見があった。	・職員数については必要時には他事業所から応援を頼み、配置する様にしていた。 ・配置数は適正である。研修等により専門性を高めている。
	事業所より ・「職員配置数は適切であるか」に対して、「利用人数の多い日や、入浴支援時等に人手があればと思うことがある。との意見があった。	・利用人数、入浴支援時に人出が必要と思われる場合は、他事業所からの応援を頼む様にした。

業務改善	事業所より ・「第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。」には全員が「いいえ」の回答だった。	・一昨年度より、事業者向並びに保護者向自己評価表を実施している。結果は回覧や配布により周知、またホームページで報告している。今年度以降も継続して実施していく予定。 ・第三者による外部評価は未実施。まずは、自己評価の結果を踏まえて支援の向上につなげていく。 外部評価の実施については、今後検討していく。
適切な支援の提供	保護者より ・「活動プログラムが固定化しない様に工夫されている」について 8 名が「はい」、1名が「どちらともいえない」との回答だった。	・日々、職員間で、活動内容については事前事後の話し合いを行っている。個別対応、体を動かす、感覚刺激、親子で楽しめる内容、季節や行事を取り入れた内容等をバランスよく取り入れる様にしている。今後も意見や要望を聞きながら、活動内容を検討していく。
	・「保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子供と活動する機会がある」では「交流も大事だが感染予防の点から今はなくて良い」「コロナが落ち着いたら交流をしたい。」との意見があった。	・コロナ感染症予防の為、今年度、他施設交流は行わなかった。昨年度までは他事業所との定期的交流はあった。再開については、感染状況など踏まえ、検討していく。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	事業所より ・「他事業所との連携や、保育園等の交流、地域の子供との交流等が出来ているか」について、全員が「いいえ」だった。	

適切な支援の提供	保護者より ・「日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、共通理解できているか」について「送迎送り時、今日の出来事を話して欲しい」との意見があった。	・送迎時の連絡等は、簡潔、手短にし、様子は連絡帳に記載する様にしていた。ご意見を頂いてからは送迎時にもその日の様子を伝える様にした。
非常時等の対応	保護者より ・緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症マニュアルを策定し、職員や保護者に周知すると共に、発生を想定した訓練を実施しているかに対して、「いいえ」または「わからない」の意見が半数以上あった。 ・非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているかに対して、「どのように行っているか不明。」「参加していないからわからない。」などの意見が複数あった。	・マニュアル等に関しては策定している。保護者会や通信物、掲示を通して保護者へも周知していく。 ・防災訓練については、消防訓練を利用児、保護者参加の元、行った。そのほか、伝言ダイヤル体験も個なった。実施した際、訓練の内容を通信等で報告していく。 ・今後も、災害に合わせた訓練を計画し、実施していく。 ・現在、事業継続計画作成中で、備蓄も毎年確認しており、今後も計画的に行っていく。
満足度	保護者より 「事業所の支援に満足している」の項目で一名「どちらともいえない」とあった。	・今後も、利用者、保護者とも満足していただけるような療育を提供できるように努めていく。面談時等に、ご意見、要望を聞いていく。

以上